

3月18日（木）

娘に誘われてパフェを食べに行きました。私にとってパフェは特別な食べ物です。

子どもの頃、大阪の親戚の家に行く途中に喫茶店やレストランがあり、店の前にはサンプルが並んでいます。ひときわ気になるのがパフェ！でも貧乏な我が家では絶対に入ることのない店です。そんな訳でパフェは私にとって高価なというか、手の出ない食べ物でした。社会人になってからは何回か食べましたが、やはり特別な食べ物という感覚があります。子どもの頃に食べられなかった寂しさや悔しさなどなどの感情が込み上げてきます。子どもにはそんな思いはさせたくないと思ってましたが、娘いわく「数日前も食べてきた」とのこと。私が抱いたみじめな思いはしていないようです。

今でもパフェは1年に1度、あるいは2年に1度、食べるか食べないかという感じです。ファミリーレストランなどでメニューを見てパフェの写真を見ると、食べたいと思いますが、なぜだか注文することは少ないです。ええ歳こいたオッサンが何を注文しとんねん、というような人目を気にすることが原因ではありません。何か複雑な感情があります。今日は家族で行ったということもあって、そんな感情は全くなく、おいしくいただきましたよ。

